神経内分泌学会員の先生方に宿泊についてのご注意

　　　　　　　　　　　　　　　第44回神経内分泌学術集会　会長　高野幸路

神経内分泌学会学術集会が10月21-22日に開かれます。参加される先生方への宿泊についてのご注意と、参加を考えられている先生方にどのような内容であるかについてのご説明をさせてください。

宿泊についてのご注意

学会は北里大学相模原校で行われます。最寄りの駅は相模大野ですが、相模大野にはホテルが少なく、また近郊の駅にもホテルが少ないという問題があります。そこで、今度の学術集会では、近隣のホテルにお願いし、部屋を確保していただき京王観光に事務代行をお願いしております。十分な数ではありませんが、今でしたら空きがありますので神経内分泌学会ホームページから申し込みされますようお願い申し上げます。

学術集会の簡単な内容

今季の学会のプログラムは、基礎の先生方にはご専門以外の見方で神経内分泌を見ていただくこと、臨床の先生方には、臨床で出会う問題を広い視野で考えるための視点を見つけていただくことを目的としてプログラム委員の先生方のご助言をいただき、作成いたしました。下垂体と視床下部機能の基礎、臨床の広い範囲の話題を取り上げました。

特別講演では、嗅覚と神経内分泌現象についてのお話をお聞きします。嗅覚そのものの機構の研究から、嗅覚刺激によって引き起こされる神経現象について長く研究を進められてきた東原和成先生に、嗅覚の近くの基礎から最新の研究内容までお話しいただきます。教育講演では、中枢によるナトリウム制御機構について、特殊な疾患を解明してゆく中で、グリアに発現する電位非依存絵性のナトリウムチャネルが制御機構の中心にあることを明らかにされた檜山武史先生に、最新の知見を含めてお話しいただきます。また、CRH-ACTH-副腎系が生存に必須である理由を含め、副腎皮質ホルモンの欠乏と過剰について、深い学識と臨床経験に裏打ちされたお話を沖 隆先生にお話しいただきます。

下垂体前葉から分泌されるホルモン、たとえば成長ホルモンやプロラクチンはサイトカインですが、なぜサイトカインが代謝と成長、母性行動と乳腺の発達などの生理作用を持つにいたったかなどという疑問は心躍るものです。たまたまなのでしょうか？これらに答えるためには、脊椎動物の歴史をさかのぼって鳥瞰する必要があります。比較内分泌学会の先生方に、下垂体ホルモンの進化の問題についてのお考えをお聞きするのがシンポジウム１です。

神経内分泌学研究の進歩には新たな研究手法の応用と開発が必須です。神経科学と神経内分泌の領域でリアルタイムで（多）細胞からの情報を収集し。統合して解析する手法を用いていらっしゃるトップランナーの先生がたにお話をお聞きするのがシンポジウム２です。

複数の前葉ホルモンが下垂体の中には特別の配列で存在しますが、これらはどのように形成されるのか、門脈系などの発生はどうなっているのかなど、下垂体発生についての疑問を解明してこられた下垂体研究会を中心とした先生方にお話しいただくのがシンポジウム３です。

脊椎動物はタンパク質や脂質を中心とした栄養摂取を基本としてきました。栄養の神経内分泌制御について、魚類から哺乳類までを考え、また膵・消化管内分泌系や視床下部・下垂体系と自律神経経路、特に求心路がどのように協調して制御を行っているかについてお話を伺うのがシンポジウム４です。

神経内分泌の2017年度の基礎と臨床での進歩についてのUpdate、各賞の受賞者の先生方の受賞講演、YIA審査口演、口頭発表演題などに加え、今年は、臨床神経内分泌の症例報告を若手の先生方にポスター発表していただき、３分間のダイジェストを基礎・臨床の先生方に合同で聞いていただきアドバイスをいただくという新たな試みも始まります。

いらしていただいて、損はさせません、ぜひ、皆様のご参集をお願い申し上げます。

　　　　　　　　　　　　　　　　第44回神経内分泌学術集会　会長　高野幸路　拝